

2021年度ユネスコスクール活動調査の結果（概要）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクールとESD（持続可能な開発のための教育）の推進を目的として、ユネスコスクール活動調査を毎年おこなっています。この度、2021年度の調査結果を取りまとめましたので公表します。

1. 調査結果から見る主な成果

① SDGs（国連持続可能な開発目標）目標4ターゲット4.7の認知度は約9割。

回答者（教員）の89.2%がSDGsの目標4ターゲット4.7の存在を知っていると回答した。加えて、回答者（教員）の95.1%がESDの推進がSDGsの17の各目標達成に大きく関わっていることを知っていると回答した。どちらの回答結果も一昨年、昨年と上昇してきており（昨年は前者86%、後者92%）、SDGsが教育現場で浸透してきたと言える。

② SDGsの17の各目標に対する取組が進められている。

SDGsの17の目標のうち、教育活動に取り入れた特に関連する目標上位5つは下記の通りである。目標12（持続可能な生産と消費）が昨年度よりも上位に入った（昨年度5番目）。

- ・ 目標11（持続可能な都市）—58.2%
- ・ 目標3（保健）—30.6%
- ・ 目標12（持続可能な生産と消費）—29.6%
- ・ 目標4（教育）—26.8%
- ・ 目標15（陸上資源）—24.7%

③ ESDの推進拠点として活動成果の発信が行われている。

昨年度の課題の一つとして「活動成果の発信」が挙げられたが、今年度は実践の発信に「努めた」と回答した学校が79.3%であった。発信方法としては、保護者や地域に向けた学校便りの発行が一番多く（71.9%）、次いで学校の公式ウェブサイトへの掲示（52.7%）、報告会や研修会の実施（33.8%）であった。報告会や研修会の実施については、「教職員の変化を促した主なきっかけ」、「教職員の活動意欲が向上した主な取り組み」の中でも挙げられており、その効果がみられる。

④ ユネスコスクールへ加盟後、ESDを実践したことによる教員の主な変化（上位3つ）は下記の通りである。ESDを意識したカリキュラム、授業、学校運営の実践の回答割合が年々高まっている。

| カリキュラム・教授法の変化

- ・ 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになった—56.6%
- ・ 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもたらした—55.6%
- ・ 授業の教材や資料、発問を工夫するようになった—52.7%

| 学校運営の変化

- ・ 学校全体でESDに取り組む機運が高まった—60.0%

- ・ 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった—45.2%
- ・ 教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった—40.2%

2. 調査結果から見る主な課題

① コロナ禍における学校間交流の在り方を検討する必要がある。

学校間交流を実施していない学校は全体の 51.9%にのぼり、海外の学校と交流したと回答した割合は昨年度同様依然低い水準を保ち 18.5%となった。その一方、交流方法は国内外ともにオンラインで交流した割合が一番大きくなっておりコロナ禍が断続的に続く中、新しい交流の形を模索している学校が多いことが分かる。ユネスコスクール公式ウェブサイトの学校間交流ページや他校の交流事例を参考に、また、ASPUnivNet などの支援を活用しながら、新たな交流活動を展開していくことが期待される。

② ユネスコスクール活動支援の活用が十分ではない。

ユネスコスクール事務局の利用状況について「特になし」の回答が 43.4%、同様に ASPUnivNet からの協力や支援について「特になし」の回答が 83.8%となっている。公式ウェブサイト等でそれぞれの支援メニューを明示化し、広く周知する必要がある。また、加盟校・キャンディデート校と ASPUnivNet の連携強化も求められる。

③ ユネスコスクールの教育活動に対する評価手法が十分開発されていない

ユネスコスクールの教育活動を評価するための工夫をしていないと回答した学校は全体の 43.4%にのぼったが、昨年度の 51%、一昨年度の 82%に比べると減少傾向にあり、年々評価に対する認識が高まっていると言える。プレゼンやルーブリックを用いた評価の実践を行っている学校も多数あるため、ユネスコスクールのネットワークを活かし、それらの取組を広く共有する必要がある。

3. 調査の概要

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が文部科学省の受託調査として 2021 年 12 月 16 日～2022 年 3 月 31 日に実施。調査内容は 2021 年度の学校の取組（2020 年 12 月～2021 年 11 月）を対象としている。国内のすべてのユネスコスクールに対してウェブによる回答協力を依頼し、493 校（回答率約 45.8%）から回答を得た。

（調査実施元）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル
 TEL:03-5577-2852 FAX:03-5577-2854
 E-mail:webmaster@accu.or.jp
 ユネスコスクール公式ウェブサイト:<https://www.unesco-school.mext.go.jp/>